

筑紫津神社（つくしつじんじゃ）・・・高槻市津之江町 1-27-1

この神社は芥川右岸近くに鎮座しています。右手には市杵島姫を祀る龍王神社、左側に 90 度向きを変えると、おっとりした熊型の狛犬が護る、拝殿、本殿鞘堂が建立されています。又社殿左右には天照大神、熊野三所権現石碑が立っています。

境内の神社の由緒書きから

芥川の水流通自然の低地に流れ、紆余曲折して澱江に入る。高月の西方平坦の地あり、土俗此の地に住む。

太古、素盞鳴尊、筑紫より御幸の際、本地に御仮泊、旅程の安全を祈るため、道祖の神を祀る。（上田の道祖神社はその古祀という）

住民、尊の威徳を敬慕し鎮守の神として奉祀す。筑紫津神社は即ちこれなり。

続いて、津之江起源

本地は古来嶋上郡に属し、筑紫津と称す。当時澱江、本地の南方に流れ、風景絶佳の地なり。その後、御神号の津を頂き、水に因みて津江と称す。是れ、津の江の起源なり。

以上境内由緒板から

当地の北 1.5 km の地に今城塚古墳がある。どうやら継体天皇の陵墓のようである。阿蘇産の石棺石材も使われている。出土品の中には円筒埴輪にへらで「帆船絵」が描かれていたものがある。発掘指揮の高槻市立埋蔵文化財調査センターの森田克行所長は、「今城塚の船絵は、大型船の停泊を表している。淀川に大きい津があった」とされ、磐井の乱とこの船絵との関係を指摘されている。

平安時代の歌謡「催馬楽（さいばら）」

原文 名无波乃宇美 名无波乃宇美 己支毛天乃保留 乎不祢於保不祢 川久之川万天尔 以末須己伊乃保礼 也万左支万天尔

読み 難波の海 難波の海 漕ぎもて上る 小舟大船 筑紫津までに 今少い上れ 山崎までに

難波から淀川を遡って、山崎までの手前に高月があり、まさに此処に筑紫津神社が鎮座、琵琶湖とゆかりの深い継体天皇と海運、水軍、筑紫の君磐井の乱、古墳の石棺、王朝交代の謎を秘めた地域である。

境内社：龍王神社（りゅうおうじんじゃ）

由緒：芥川の水流通自然の低地に流れ、紆余曲折して澱江に入る。高月の西方平坦の地あり、土俗此の地に住む。

太古、素盞鳴尊、筑紫より御幸の際、本地に御仮泊、旅程の安全を祈るため、道祖の神を祀る。（上田の道祖神社はその古祀という）

住民、尊の威徳を敬慕し鎮守の神として奉祀す。筑紫津神社は即ちこれなり。

（境内由緒書きから）

「素盞鳴尊が祀られている」

筑紫からやってきた素盞鳴尊がこの地に泊まり旅の安全を祈願した。

素盞鳴尊を敬った土着住民が「津」を頂き道祖神に筑紫津神社と命名して鎮守としたのが神社の始まり。

芥川の水に因む江をつけ周辺一帯を「津之江」と呼ぶ起源になった。

こじんまりした筑紫神社内には素盞鳴尊の娘にあたる市杵嶋姫（いちきしまひめ）を祀る神社や様々な碑がある。」（「高槻市観光案内」から）